

# 変わりつつあるわたしたちの暮らし方

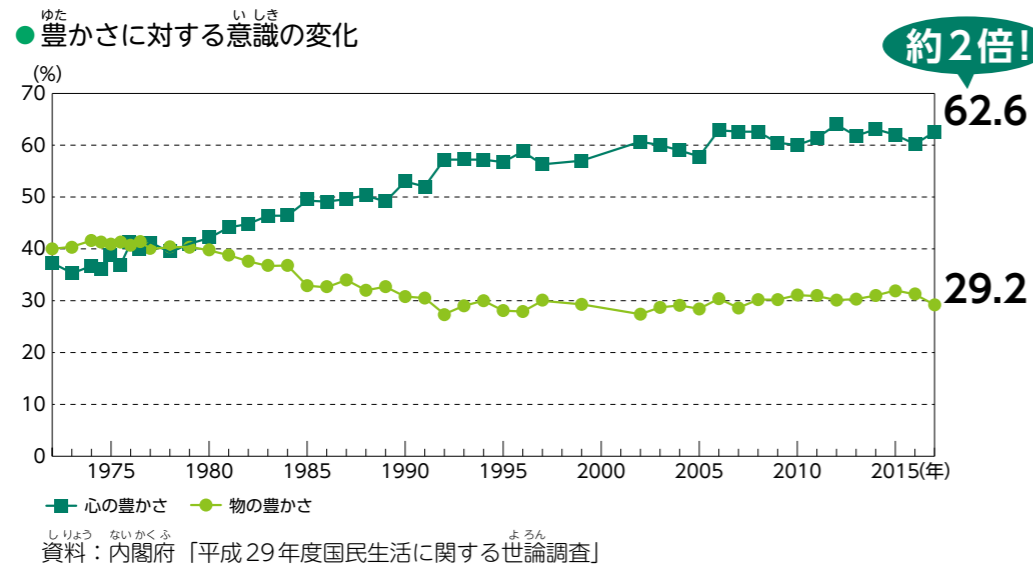
わたしたちのモノやサービスの購入、エネルギーや資源の使用は、地球環境に大きな影響をおよぼしています。そのため、持続可能な社会づくりをしていくためには、わたしたち一人ひとりの暮らし方を変えていく必要があります。

日本人の意識の変化や、環境を考えた持続可能な行動を考えてみましょう。

## 豊かさに対する意識の変化

日本では1960年代以降、経済が急速に発展し、多くの人々が便利で快適な生活を送れるようになりました。その一方で、「豊かさ」に対する意識は大きく変化してきています。

かつては「心の豊かさ」より「モノの豊かさ」を重視する人の方が多かったですが、近年は「心の豊かさ」を重視する人の割合が「モノの豊かさ」を重視する人の約2倍となっています。



## コラム 世界で最も貧しい大統領

ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領は、その質素な暮らしぶりから、「世界で最も貧しい大統領」と呼ばれていました。2012年、ブラジルのリオデジャネイロで開催された「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」において、わたしたちのライフスタイルを見直すべきとしたスピーチを行い、世界から大きな注目を集めました。

● リオ+20におけるホセ・ムヒカ大統領のスピーチ



資料：UN Photo

## モノは所有から共有へ

近年、個人等の所有物や技能を、インターネットを通じて共有する「シェアリング・エコノミー」という取組が進んでいます。モノや空間などを共有することで、資源を効率的に活用し、ごみの発生量、温室効果ガス排出量の削減といった環境保全の効果が期待されています。

## コラム 自転車シェアリング

株式会社ドコモ・バイクシェアでは、環境に配慮した自転車シェアリングサービスを全国で展開しています。スマートフォンなどで手軽に貸出手続きができて、複数のポート(専用の自転車置き場)でどこでも自転車が貸出・返却できることから、利用が進んでいます。自転車シェアリングは、温室効果ガスの排出量の削減や資源の有効利用のほかに、地域の活性化などにも貢献しています。

● ドコモ・バイクシェアの自転車と自転車ポート



資料：株式会社ドコモ・バイクシェア

## 暮らしの考え方をちょっと変えるだけで

暮らしの考え方を少し変えることで、様々な環境を維持する効果が期待できます。

例えば、食べ物を必要な分だけ購入して食べ切れれば、食べ物という資源を有効活用するだけでなく、食べ残しを運ぶための燃料の削減、食べ残しの処理で発生する温室効果ガスの削減といった効果も期待できます。また、最近注目されている「オーガニック」についても、生物多様性の保全に役立つものであるだけでなく、他の様々なメリットにもつながり得ることから、有機農業にとどまらず、衣・食・住にわたるライフスタイルを全体的にとらえるものとして考えることもできます。

このように、社会全体を持続可能にするためには、一人ひとりの考え方を変えていくことが重要です。

